

2 質問紙調査の結果から

(1) 授業における目標（めあて・ねらい）の提示と学習内容を振り返る活動

「目標（めあて・ねらい）の提示」については、小6、中3ともに肯定的回答をしている児童生徒の割合が増加する傾向が見られます。

ここからは、児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から、県全体でどのような傾向が見られるか確認します。
まず、授業に関する項目に焦点を当てて見ていきましょう。



「振り返る活動の実施」については、小6、中3ともに「はい」と回答している児童生徒の割合が増加する傾向が見られます。



「目標（めあて・ねらい）の提示」や「振り返る活動」については、定着が図られてきていることが分かります。

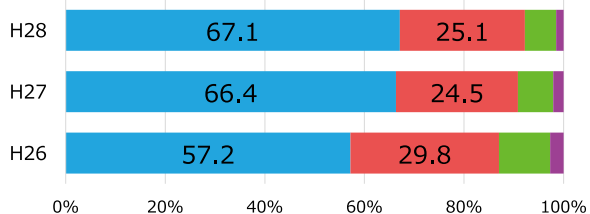
今後もこれらの活動の目的を明確にして、内容を充実させることで、児童生徒の学習意欲の向上や主体的に学ぶ態度の育成等を図っていきましょう。

目標（めあて・ねらい）の提示

■ はい ■ どちらかといえば、はい ■ どちらかといえば、いいえ ■ いいえ

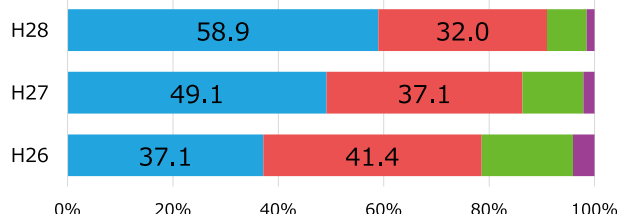
小6

授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか



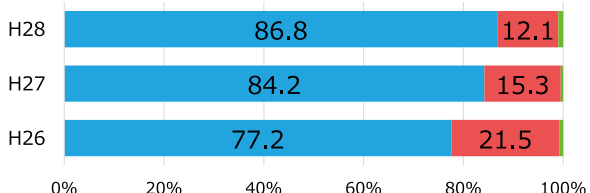
中3

授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか



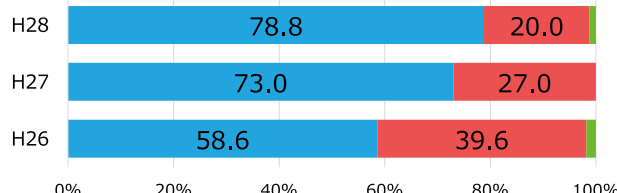
小学校

授業の中で、目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか



中学校

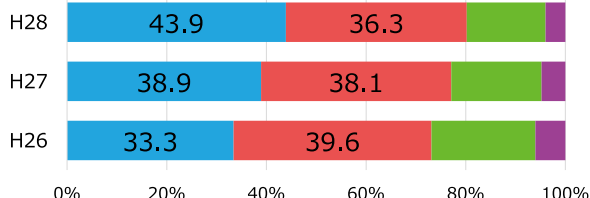
授業の中で、目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか



学習内容を振り返る活動の実施

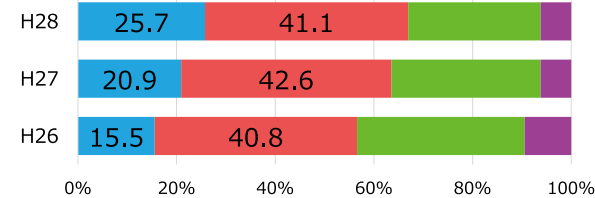
小6

授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



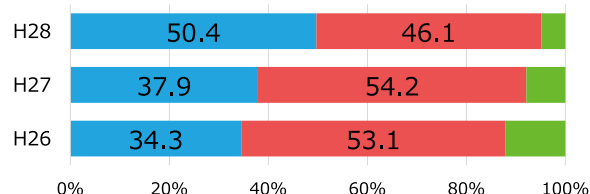
中3

授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



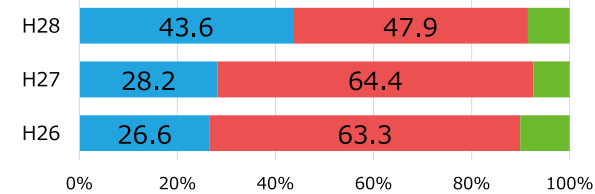
小学校

授業の最後に、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れましたか



中学校

授業の最後に、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れましたか



(2) 話し合う活動の実施と児童生徒の思考の深まり・広がり

「話し合う活動の実施」について、肯定的回答をしている児童生徒の割合は、平成26年度以降大きな変化はなく、小6・中3ともに、85%程度である。

「児童生徒の思考の深まり・広がり」について、「はい」と回答している児童生徒の割合は、年々増加している。

「話し合う活動の実施」と「児童生徒の思考の深まり・広がり」で「はい」と回答した児童生徒の割合を比べると、20ポイント程度の差が見られます。

話し合う活動などの言語活動は、思考力・判断力・表現力等を育成する上で大変有効です。そのため、単元の指導計画に、言語活動を意図的・計画的に位置付けることが大切です。

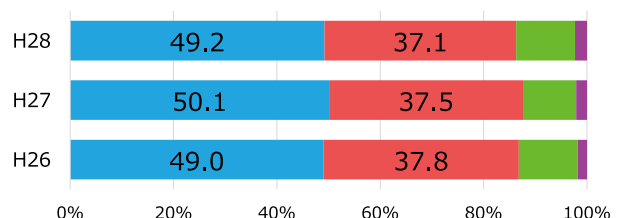
また、授業においては、自分の考えを整理させ、その上で話し合う活動を行うなど、思考の深まり、広がりにつながる話し合いとなるように工夫することが大切です。



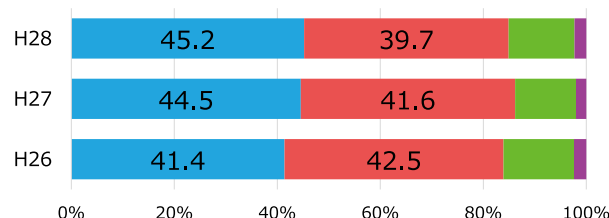
話し合う活動の実施

■ はい ■ どちらかといえば、はい ■ どちらかといえば、いいえ ■ いいえ

小6 話し合う活動をよく行っていたと思いますか

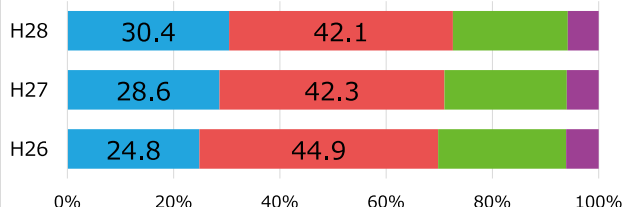


中3 話し合う活動をよく行っていたと思いますか

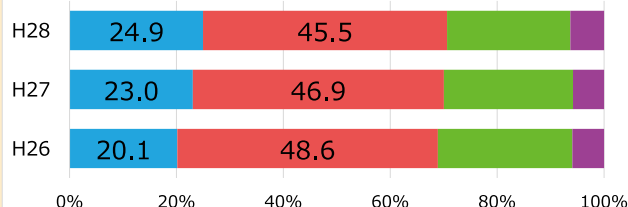


児童生徒の思考の深まり・広がり

小6 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

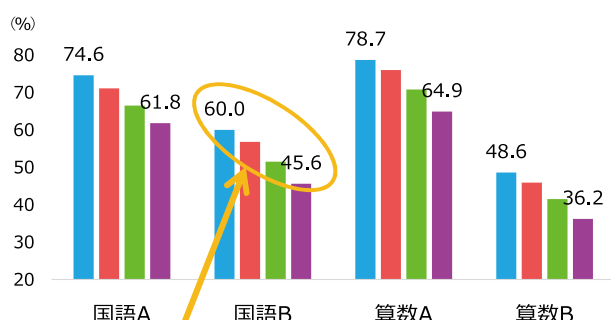


中3 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

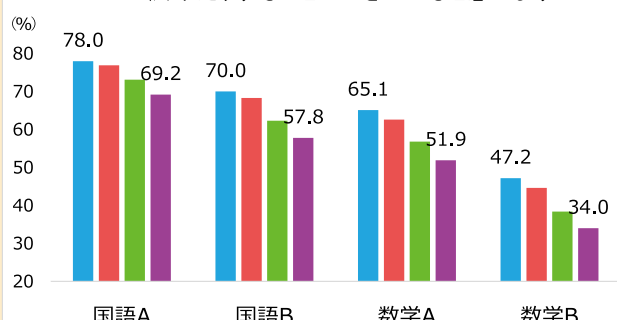


児童生徒の「思考の深まり・広がり」と教科の平均正答率とのクロス集計

小6 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



中3 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



小学校国語Bにおいて、「はい」と回答した児童の平均正答率が60.0%、「いいえ」と回答した児童は45.6%であり、その差が14.4ポイントであることが分かります。

(3) 発表すること

「発表する機会」については、小6・中3ともに、85%の児童生徒が肯定的回答をしており、児童生徒が考えを発表する場面が位置付けられていることが分かります。

「自分の考えを発表すること」については、得意と感じている児童生徒は半数以下であることが分かります。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」についてのクロス集計の結果から、肯定的回答をしている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向があることが分かります。

授業において、児童生徒が、自分の考えを深め、発表することができるように、まず、自分の考えを整理し、まとめ、書く活動を意図的に位置付けるなどの工夫をすることが大切です。

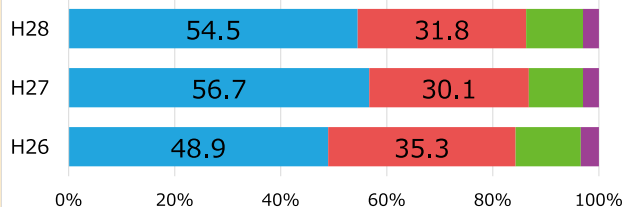


発表する機会

■ はい ■ どちらかといえば、はい ■ どちらかといえば、いいえ ■ いいえ

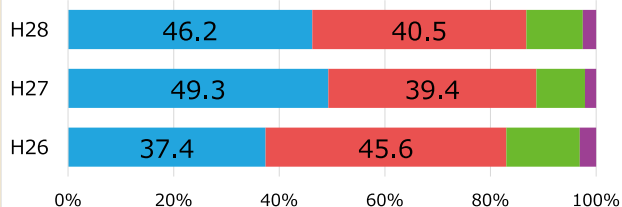
小6

授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



中3

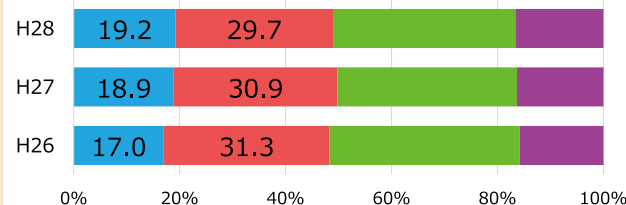
授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



自分の考えを発表すること

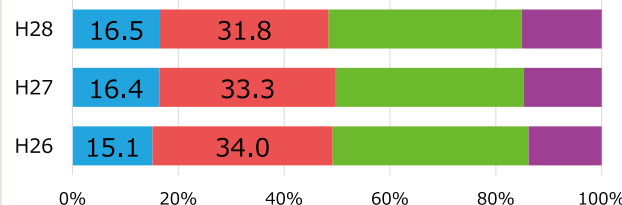
小6

自分の考えや意見を発表することは得意ですか



中3

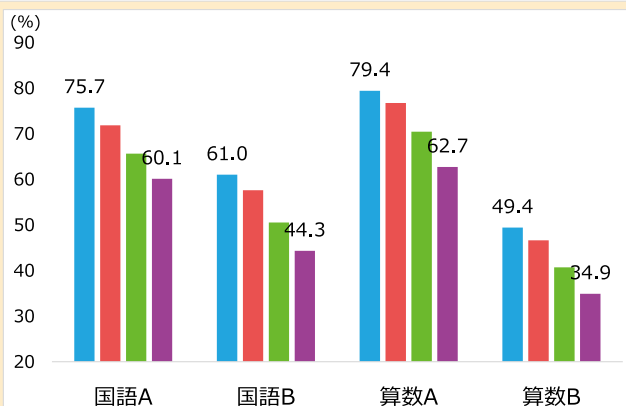
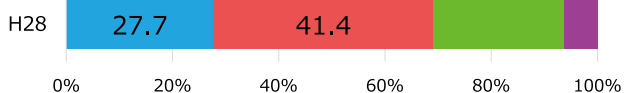
自分の考えや意見を発表することは得意ですか



自分の考えを発表するときの意識と教科の平均正答率とのクロス集計

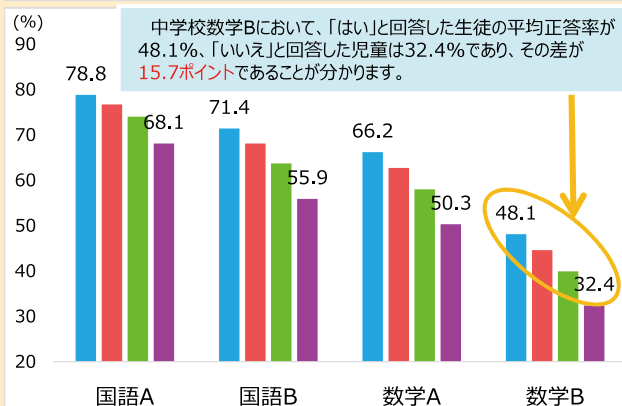
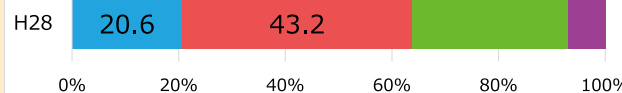
小6

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



中3

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



中学校数学Bにおいて、「はい」と回答した生徒の平均正答率が48.1%、「いいえ」と回答した児童は32.4%であり、その差が15.7ポイントであることが分かります。

(4) 自分の考えやその理由を書くことと考えたことを書かせる指導

小6（国語）で、「自分の考えを分かるように書くこと」について、「はい」と回答している児童の割合は、年々増加している。

中3（数学）で、「自分の考えを分かるように書くこと」について、平成26年度以降大きな変化はなく、肯定的回答をしている生徒の割合は80%を超えている。

「自分の考えを書くとき、考えの理由や考え方が分かるように気を付けて書いている」と肯定的に回答している児童生徒は、小・中学校ともに80%程度の割合であることが分かります。

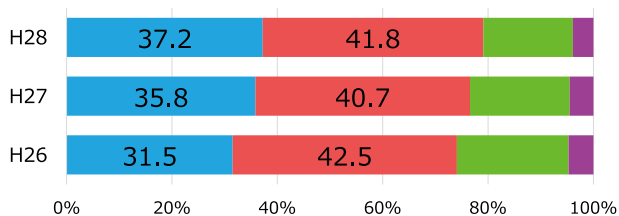
児童生徒が、自分の考えをまとめ、分かりやすく表現する力を身に付けるためには、授業において、視点を明確にした発問をしたり、書いたものを基にペアやグループ等で説明し合う活動を取り入れたりするなど、指導方法や学習形態等を工夫することが大切です。



自分の考えやその理由を分かるように書くこと

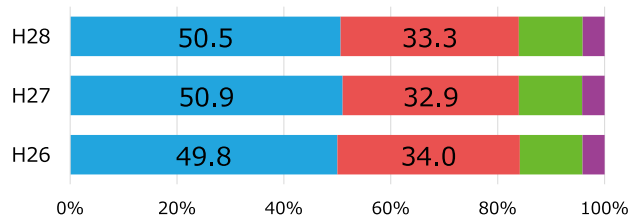
小6

国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



中3

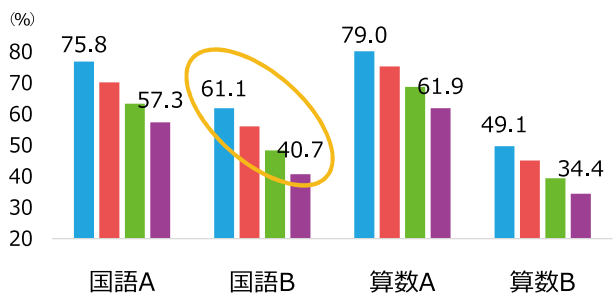
数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



自分の考えやその理由を分かるように書くことと教科の平均正答率とのクロス集計

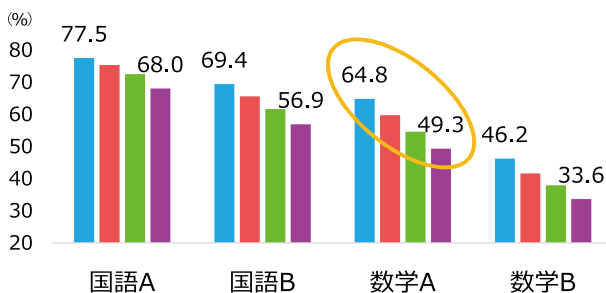
小6

国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



中3

数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



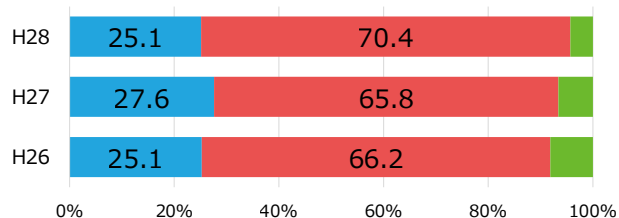
小学校国語Bにおいて、「はい」と回答した児童の平均正答率が61.1%、「いいえ」と回答した児童は40.7%であり、その差が20.4ポイントであることが分かります。

また、中学校数学Aにおいて、「はい」と回答した生徒の平均正答率が64.8%、「いいえ」と回答した生徒は49.3%であり、その差が15.5ポイントであることが分かります。

調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導

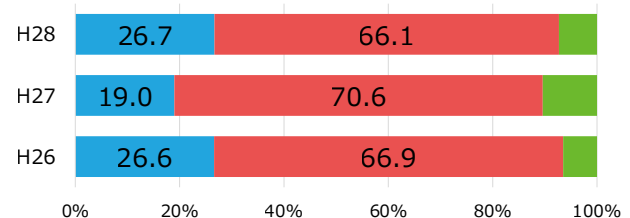
小学校

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



中学校

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



(5) 調査結果の活用

全国学力・学習状況調査の自校の結果を学校全体で「共有」「活用」「反映」したかについて、「よく行った」と回答している学校の割合は、どの項目においても年々増加している。

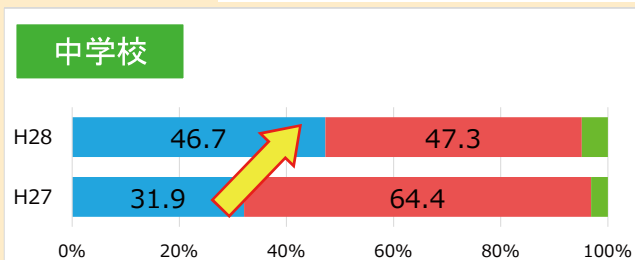
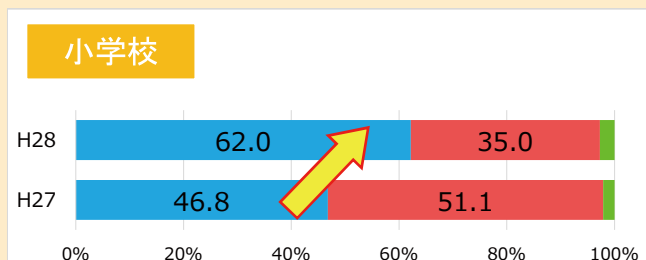
調査結果を基に、学校全体で、自校の強みと課題を共有することは、組織的な取組を推進する上で、とても大切です。

また、明らかになった課題の解決に向けて、どのように授業を充実・改善していくかなどについて具体的に話し合い、学校全体で取り組むことが重要です。

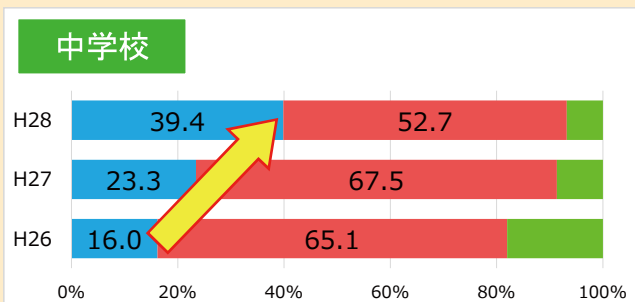
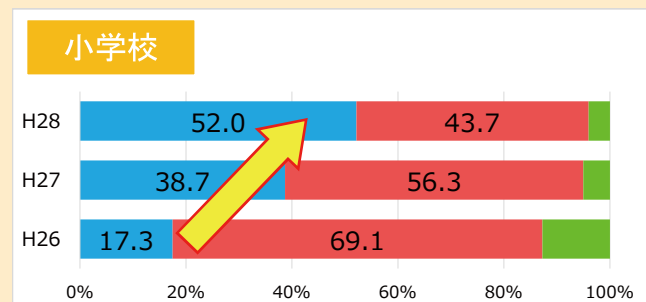


全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか

よく行った 行った ほとんど行っていない

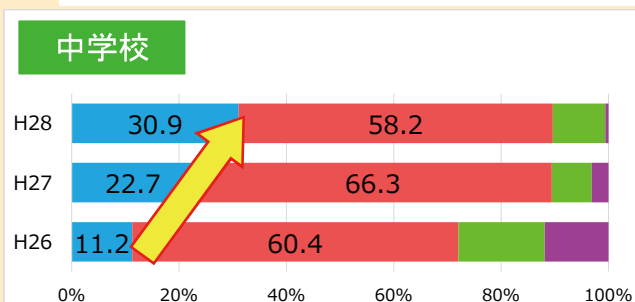
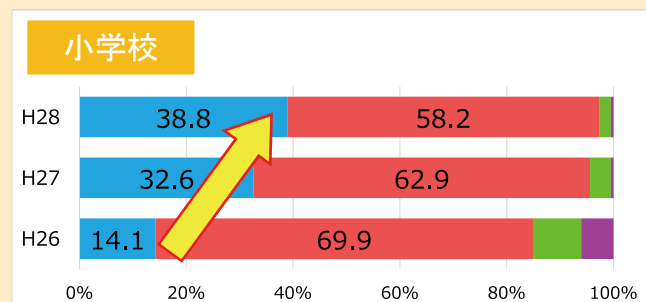


全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

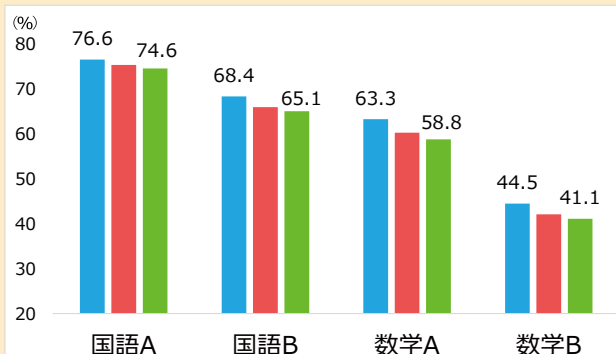
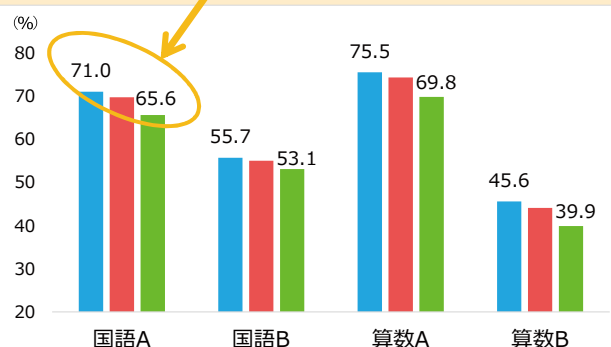


全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

よく行った 行った ほとんど行っていない 実施していない



小学校国語Aにおいて、「よく行った」と回答した学校の平均正答率が71.0%、「ほとんど行っていない」と回答した学校は65.6%であり、その差が5.4ポイントであることが分かります。



(6) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況（新規項目）

「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、80%程度であり、児童生徒の学習態度として、一定の定着状況が見られます。

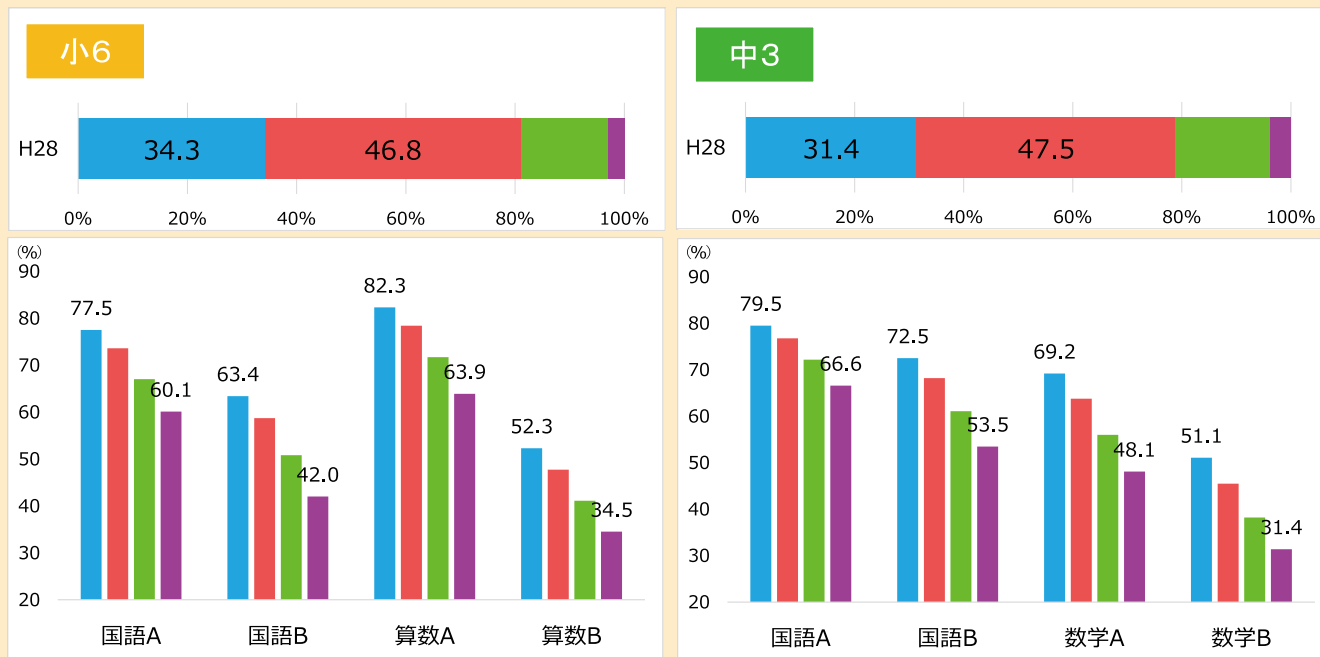
児童生徒質問紙、学校質問紙ともに、クロス集計の結果から、肯定的な回答を選択した児童生徒や学校の方が、平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

授業においては、学習課題を発見・設定し、自力解決や集団解決の学習活動を通して、児童生徒が、自身の学びをより深めることができるように工夫することが大切です。

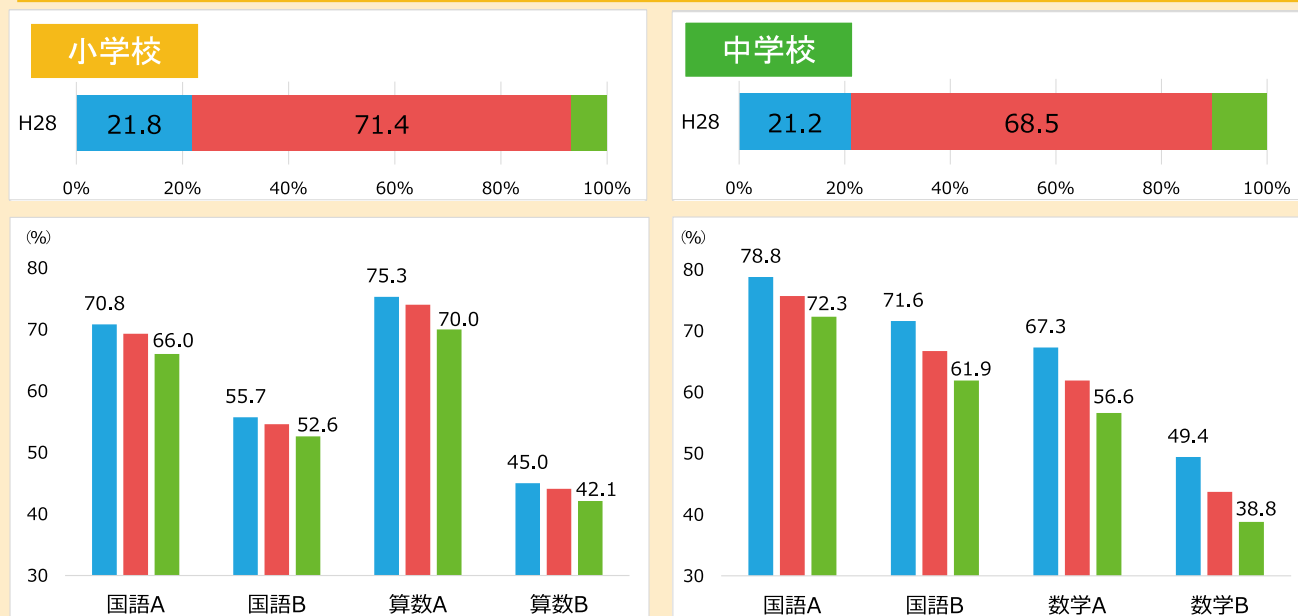


【児童生徒質問紙】 授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか



3「確かな学力」の向上に向けた今後の取組について

本県では、平成26年度から「とちぎっ子学習状況調査」を要とする「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を実施しています。

昨年度示した、授業における「目標(めあて・ねらい)の提示」や「振り返る活動の実施」については、今年度の調査結果から、多くの学校で取り組まれていることが分かります。

一方で、栃木県(公立)では、全国(公立)と比べて、ほとんどの教科において、正答数の多い児童生徒の割合が少なく、正答数の少ない児童生徒の割合が多い傾向が見られることから、個に応じた指導を充実させるとともに、今後も基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用して問題解決をする思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、授業を改善していく必要があると考えます。

各学校においては、全国学力・学習状況調査結果等を活用した校内研修や課題解決に向けた授業研究会等を通して、とちぎの子ども「確かな学力」の向上に向けて、学校全体で組織的に取り組んでいきましょう。

県教育委員会ではこれまで、「とちぎの子どもの学力向上を図る授業改善例」「とちぎの子どもたちの確かな学力向上のために～授業改善に向けた3つの視点～」を主体的に考え表現できる子どもを育てるために」を作成し、配布してきました。

また、文部科学省からは、「全国学力・学習状況調査報告書」、「授業アイデア例」など学習指導の改善・充実に向けた資料が出されています。併せて御活用ください。



主体的に考え表現できる子どもを育てるために
栃木県教育委員会 (平成26年度)



とちぎの子どもの学力向上を図る授業改善例
栃木県教育委員会 (平成26年度)



とちぎの子ども「確かな学力」向上のために
授業改善に向けた3つの視点
栃木県教育委員会 (平成27年度)



小学校報告書



中学校報告書



授業アイデア例

全国学力・学習状況調査 関連資料
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

※ これらの資料は、それぞれのホームページからダウンロードすることができます。

栃木県教育委員会事務局 学校教育課 学力向上推進室
〒320-8501 宇都宮市塙田1丁目1番20号 TEL:028-623-3367 FAX:028-623-3361